

## 知的障がいのある方をサポートするとき

### 【大切なこと】

本人のペースに合わせて、わかりやすく伝えましょう

### ■ 主な特性等

知的障がいのある方は、他の人とうまくコミュニケーションが取りにくいところがあるため、生活をする上で様々な不自由さが生じます。障がいの状況も個人差がありますが、本人の状態に合わせたコミュニケーションの取り方や、本人のペースで生活ができると落ち着いて過ごすことができます。

- 目に見えないことや先のことを想像すること、複雑な会話やいくつかの情報をいっぺんに把握することが苦手です。
- 急な環境の変化への対応が苦手で、時に混乱して動けなくなったり、大きな声をあげてしまうことがあります。

### 【コミュニケーションの方法】

- わかりやすく具体的な短い言葉でゆっくり伝えましょう。
- 言葉でのやりとりが難しいときは、伝えたい物の絵や写真、筆談用のカードやコミュニケーションボードを使ってみましょう。

### ■ 避難誘導の仕方

- やさしく落ち着いた声でゆっくり具体的に話しましょう。
- 歩行に個人差があるため、本人のペースで移動しましょう。
- 体に触られる事が苦手な人もいるので、無理に手をひいたりしないようにしましょう。

## ■ 避難生活支援で気をつけること

- 環境が変わることに不安があり、その場所に慣れるまで声出しや動き回り等の行動が見られる場合があります。
- コミュニケーションは、わかりやすい言葉でゆっくり話をして下さい。
- 言葉でのコミュニケーションが取りにくい人もいるため、伝えたいことを本人に絵や文字で筆談する等、わかりやすい情報提供が必要です。

### 【避難所での支援】

- 本人の過ごしやすい場所を提供する等の配慮をお願いします。
- トイレや手洗い場等の場所を本人に伝え確認しておくことが必要です。

## ■ 災害発生時に困難なこと

- 自分で場の危険を予知したり、判断したりすることが困難です。
- 災害による急な環境の変化を理解し、状況に応じた行動を取ることが困難です。
- 誘導の際、急がせたり、急な声掛けや予定の変更に混乱しやすいです。

### 【混乱した状態の時】

大きな声を出したり、急に走りだしたり混乱しているときは、押さえつけたり叱っても不安が増し逆効果になるため、落ち着くまで見守りましょう。

### 【ケガや病気が疑われる時】

ケガや痛みを伝えられない人、痛みを感じにくい人がいますので、様子を見て必要があれば医師にみてもらうようにして下さい。

## ■ 本人、家族等から支援者へ (知っておいてほしいことを記入しましょう)

(自由記入欄)

.....

.....

.....

.....



## ■ 避難するときに気をつけること

- どこが安全な避難場所か災害情報を良く確認しましょう。近くに川や山がある際は、避難経路を確認しましょう。
- 緊急性が高い時は、持ち出し品は最低限のものにとどめましょう。

## ■ 避難生活で気をつけること

- できるだけ、日常の支援者と行動を共にする等して、落ち着いて過ごせるようにしましょう。
- できるだけ、落ち着ける場所を確保しましょう。大勢の人がいる場所より、少人数で過ごせる個室や部屋に仕切りがあると落ち着けます。
- トイレや手洗い場の場所をわかりやすく表示しておきましょう。
- 興奮したり混乱したときに、移動できる部屋を用意してもらえるように働きかけましょう。
- 避難所での予定の見通しが持てるように、生活スケジュールを目で見てわかるように表示しておきましょう。
- 環境の変化や、他の人と一緒の生活で、不安になることがあります。困ったときは支援者の方に相談しましょう。
- 避難所に行けず自宅や車中で過ごす場合も、情報収集や安否確認と食糧・日用品・人的支援を受けるため、一度は避難所に行きましょう。